リレーエッセイ

着眼大局

滋賀銀行 常務取締役
今井 悦夫

琵琶湖の宝

滋賀県でこの夏（8月18日～20日の3日間）、「ESD・KODOMOラムサール〈琵琶湖〉」が開催されました。NGO（非政府団体）ラムサールセンターが滋賀県、草津市と共催したもので、湿地で環境活動を行う全国の子供たちが滋賀県に集まり、さまざまな体験、交流を行いました。

最終日には「琵琶湖の宝」として「県民の琵琶湖に対する愛情」「琵琶湖の水」「沖島」「固有種」「琵琶湖を守る人々のとりくみ」「湖魚食文化」の六つの宝を決定されました。琵琶湖の恩恵を受けながら生活している者として、いずれも印象深いキーワードとして心に刻まれたので、紹介させていただく次第です。

当行も「琵琶湖を守る人々のとりくみ」の当事者として、また「湖魚食文化」の地域資源発展を応援するサポーターとして、「ヨシ刈り」や「ニゴロブナ・ワタカの放流」「外来魚駆除」など生物多様性の保全活動を展開しています。また、10月1日から各店で掲示する「秋」のメインポスターのサブタイトルは「琵琶湖の恵みを未来に引き継ぐために。」とし、環境と生態系保全への想いを込めています。

今回、世界中の「ESD」の思想と活動を子供たちのものとして広げる「KODOMOラムサール」を初めて知り、自然の豊かな恵みを次世代に引き継ごうとするこの取り組みを、まさに「宝」としなければならないと肝に銘じたところです。

※ESD／Education for Sustainable Developmentの略。持続可能な社会づくりの担い手を育む学習や活動のこと。
ラムサール条約／広く水辺の自然生態系を保全することを目的とする国際条約で、1993年に琵琶湖が登録され、2008年に西の湖が拡大登録された。

県内データ あれこれ

● 在留外国人統計より

在留外国人は減少傾向に反転の兆し

全国では増加に転じる

今回は、法務省が公表している「在留外国人統計」についてみてみたい。2013年12月末現在、県内には2万4,712人の外国人が住み、全国の外国人の約1.2%を占めている（全国計206万6,445人）。

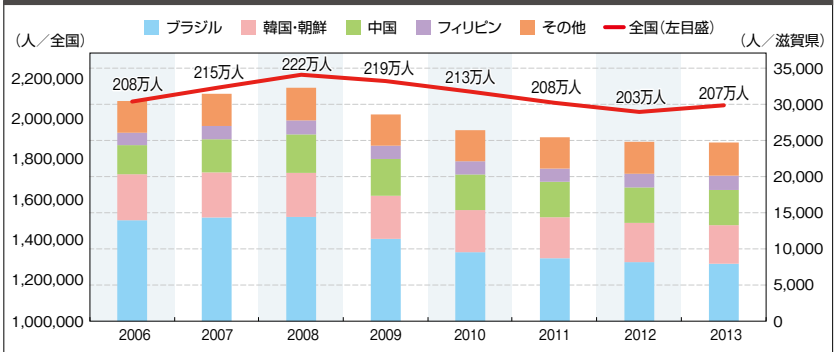
グラフは全国と県内の在留外国人の推移を表したものだ。08年に発生したリーマン・ショックを境に減少傾向であったものの、全国では、13年に増加に転じ、県内でも下げ止まりの傾向がみられる。これは、企業業績が回復傾向にあり、製造業を中心に、再び外国人労働者の雇用が増加していることが背景にあるようだ。

県内の在留外国人を国籍別でみると、ブラジル（7,945人）が最も多く、約3割を占めている。次いで韓国・朝鮮（5,339人）、中国（4,869人）、フィリピン（1,978人）などが続いている。

全国的に人手不足が大きな経営課題となっている昨今、人手不足の打開策の一つとして外国人労働者の活用が期待されている。女性、シニアの労働力活用と並行して、外国人労働者の受け入れ促進を進め、雇用促進による経済活性化に期待したい。

（（株）しがぎん経済文化センター 吉川 友）

在留外国人の推移全国（総数）、滋賀県（総数、国籍別）



資料…法務省「在留外国人統計」（注）左目盛（全国）、右目盛（滋賀県）